

おい図書館

No.125

発行 おい図書館
代表 青木和子
松本市牧の原1-104-416
TEL 047-311-0886

松本市長期総合計画

第三次実施計画(素案)について

青木和子

2007年5月29日付けて「第三次実施計画(素案)」が示されました。2007(平成20)年度の三ヶ年計画です。

それについて「広報まつど」7月15号に、市民からの意見募集(月見切り)の案内が掲載されました。しかし、計画の内容はインターネットで見ることができず、広く市民の声を聞くための手だてとしては疑問に思いました。

私達は「素案」を入手することができ、総務企画本部政策調整課

宛に、図書館政策についての意見を附で送りました。

この機会に、川井市政における実施計画の図書館政策を一覧表にまとめ(2頁に掲載)、その変遷を振り返ってみます。

私達「おい図書館」が念を立ち上げてから15年が経ちます。会の発足当時、新しい図書館建設は、すぐにでも実現しようと思えました。

H.6年、宮前前市長は、図書館用地として相模台の大蔵省関税中央分析所跡地の払い下げを国に陳情しました。しかし、その数ヶ月後に急逝されました。市政を引き継いだ川井市長の

もとても、中央図書館建設計画は長期総合計画の実施計画(H.10(14年度)に盛り込まれました。

ところが、H.12年に、市は「お金が無い」という理由で払い下げの権利を放棄し、JR松戸駅に至近距離で松戸市の一等地であるその土地は、聖徳大学の所有となってしまうました。

H.13年の実施計画中間見直しとH.15(19年度)の第二次実施計画では、「建設着手」の文言が消えました。

今回示された「素案」は、何をしようとしているのか、更に理解不能な内容で、様々な疑問が生じます。

・取り組み課題・見直しの詳細は？
・目指す成果・どのような基準で配置するのか？

・目標・具体的にどのような方法を考えているのか？
・事業費・費用がゼロで何ができて

実施計画の変遷

H.10～14年度

NO	事業名 (担当課)	9年度末 現況	計 画 目 標		
			事業内容	事業年度	14年度末
2	生涯学習会館建設事業 (教/企画調整室) (図書館)	—	市民の生涯学習を支援するため、市内図書館網の中心となる中央図書館と、学習情報提供機能を中心とする生涯学習センターを併設した「生涯学習会館」の建設に着手する。	13～14	建設着手

H.13年 中間見直し

NO	事業名 (担当課)	12年度末 現況	計 画 目 標		
			事業内容	事業年度	14年度末
2	生涯学習会館建設事業 (生/企画管理室) (図書館)	調査研究	市民の生涯学習を支援するため、会館建設に向けて用地の決定を行う。 また、市民需要調査結果に基づき、(仮)生涯学習会館建設委員会を設置し市民とともに検討を進める。	13～14	基本設計

H.15～19年度

事業名	事業内容	担当課名
生涯学習会館構想研究事業	市民の生涯学習を支援するための要となる生涯学習会館建設に向け、図書館、美術ホール、学習情報センター等の機能を含めた複合施設としての構想を研究・検討します。	生涯学習本部 企画管理室

H.20～22年度 素案

No.	取り組み課題	目指す成果	目標	事業費(単位：千円)	対象事業	
40	おはなしキャラバンのあり方について検討します【図書館】	民間や地域人材を有効に活用することにより、読書普及活動が促進され、コストの削減を図ることができます	18年度に64人であった「読書普及に関するボランティア」の人数を5割以上増やします	20	51,691	幼児児童の読書普及事業
				21	44,675	
				22	37,659	
				計	134,025	
41	市民会館や図書館等の社会教育施設の充実を図るため見直しを行います【生涯学習本部企画管理室 図書館 社会教育課 市民会館】	生涯学習ニーズを反映し、地域性、利便性を考慮した社会教育施設の配置が行われます	施設の稼働率、利用者を増やします	20	—	(仮称)生涯学習センター建設事業 図書館管理運営事業
				21	—	
				22	—	
				計	—	

(二頁より)

るのか?
対象事業・具体的には?

また「おはなレキヤラバン」の
取り組み課題も示されましたが、
これまでの長い年月、「幼児・児
童の読書普及事業」として多額の
税金を投入し続けた結果、どのよ
うな成果が現れているのかを検証
し、公表してほしいものです。過
去を検証することなしには、先へ
進むことはできないはずだと思
います。

まず、何よりも先に、松戸市と
しての図書館構想・理念を明確に
示すべきでしょう。その上で、実
現可能なこととして、学校統廃合
によって生じた空き教室を「地区
(地域)図書館」として活用する
こと等を考えてほしいと思います。

このように、松戸市の図書館政
策が後退を続けている間にも、確
実に世の中は動いて行きます。図

図書館の重要性がますます増して

いることは明らかであり、誰も
それを止めることはできません。

少子高齢化の中、市民が喜ん
で住み続けられるように惹きつ
けるには、単に本を貸出すだけ
ではない、生涯学習機能を併せ

持つ「まちの頭脳」としての図
書館の存在は不可欠です。図書
館の資料を使って自分で調べ判

断し行動する、行政に頼るだけ
ではない自立(自律)した市民を

育て、長く住み続けてもらうこ
とは、市にとってどれ程プラス

になることかと思えます。市民
から運営を委任されている行政

は、重い責任を負っているので
はないでしょうか。

市政に携わる方達が、他市の
図書館見学などを通して、その

ことに気付いて下さることを、
心から願っております。

九月定例市議会を

傍聴しました

青木和子

本会議で、「松戸市の図書館の
あり方」について、山中議員から
質問がありました。(9月6日(木))

質問 図書館の持つ重要性について

1. 本を読むこと・文字に触れる
ことの重要性

2. 公益性・望む人すべてに平等
なサービス

3. 時代性・これからは物質より
精神的な豊かさを、

4. 発展性・読書や情報収集は、
多くの分野における
究極の生産活動

5. 生涯学習の場・人生を豊かに
過ごす

このような機能を持つ図書館を
人材育成のための基盤として位置
づけたフロンティアに習って、日

本は「人材立国」を、松戸市として「人材立市」を目指すべきではないか。

しかし、松戸市は、県内公立図書館サービス指標によると、住民一人あたり貸出し冊数・蔵書数・住民一人あたりの図書費その他で、いずれも下位に位置する。「人材立市」には程遠い状況だ。

第三次実施計画には図書館についての言及があるが、今後に期待できるのか？市長が目指す図書館像・理念を聞かせてほしい。

管轄生涯学習本部長・図書館は生涯学習の中の分野と認識している。県内公立図書館サービス指標については、費用対効果などもあわせて精査していきたい。

【要望】10年後・20年後を考えた理念を市長から聞きたかったが、叶わず残念だ。これからも図書館政策に注目していきたい。

平成18年度

決算審査特別委員会を

傍聴しました

青木和子

9月定例市議会中、決算委員会教育費審査は25日(X)でした。図書館に関する主な質問・答弁・要望は次の通りです。

* * *

① 学校図書館巡回司書の現状は？

② 計6名で、一人が10〜15校を担当。一校を学期毎に4日間、年間で計12日間ずつ巡回。

③ 学校図書館に、司書資格を持つボランティアの活用を。

④ 身体障害者への図書貸出は？
⑤ すべての市民に等しくサービスすることは、自立支援に向けた重要な任務と認識している。

⑥ 市立図書館の年間貸出冊数が一万冊減った理由は？

⑦ 貸出だけが図書館サービスで

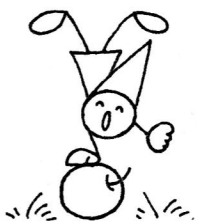
はないが、重要な指標なので、その原因を探る必要がある。

⑧ おはなしキャラバンの見直しについて

⑨ 費用対効果が良くなかったもので、H.18年度より、人形劇・おはなし中心からボランティア養成の支援へと活動を移し、読書活動推進法・文字活字文化振興法・公益法人改革の面からも見直ししていく。

⑩ 以前にも質問・要望したが、キャラバンは独立採算にし、収益を図書購入費に回したらどうか。

後記



11月中には、第三次実施計画(案)が示され、市民からの意見募集がされると思います。その機会を逃さずに、私達市民一人一人の意見を届けましょう!!